

2021年9月1日

日本現代中国学会第71回全国学術大会のご案内

会員各位

5月末にご連絡しましたとおり、第71回日本現代中国学会全国学術大会は、10月23日（土）、24日（日）の両日、オンラインにて開催いたします。今回の全国大会は、共通論題として中国共産党建党100年をテーマとして取り上げます。また同時に、今年は本学会創立70周年の節目でもありますので、二日目に「特別分科会」の時間を設け、現代中国研究の過去・現在・未来に焦点を当てたシンポジウムを行うこととなりました。昨年の明治大学大会に続き2年連続のオンライン大会となりますが、多くの会員のご参加をお待ちしております。

開催校代表

西南学院大学国際文化学部 新谷秀明

1. オンライン参加の手引き

- ・今回の全国大会のための特設サイトを設置します。

大会特設サイトへのリンク：

<https://genchunishi.sakura.ne.jp/wp1/>

なおこのサイトにアクセスするためにはパスワードが必要です。パスワードは開催2週間前の10月8日（金）頃に全会員にメール送信する予定です。

また、学会のホームページにも特設サイトへリンクを貼ります。

- ・共通論題、総会、各分科会および全国理事会はCisco Webex Meetingsによるリモート会議となります。共通論題、総会、各分科会のリモート会議室へは、大会特設サイトを経由して入室してください。全国理事会の通知は、別途、事務局長よりMLで配信されます。

- ・Webexを初めてお使いの方は、Webexアプリを事前にダウンロードしておかれることをお勧めします。

Webexの公式マニュアル：

https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/webex/how-to-use.html

- ・大会当日Webexに接続される際には、会員であることが確認できるよう、氏名（入室後に表示される名前）を学会名簿記載のものと同一氏名（漢字、かな、アルファベットともに可）にしてください。Webexは入室後の名前の変更ができない仕様になっていますので、事前にプロフィール設定をお願いします。

・総会の接続テスト

スムーズに総会にご参加いただけるように、次の日時に接続テストの時間を設定します。この時間になりましたら配布されたパスワードで特設サイトに入り、総会へのリンクから接続を試すことができます。

「総会」接続テスト：10月16日（土）17:00-18:00

なお総会以外の各セッションについては、司会者・発表者・タイムキーパー等に限定した接続テストを設定します。日時は該当者に別途連絡します。

2. 出欠の事前調査 → <https://forms.gle/VFTZhVLHDJEfDsJ2A>

上記リンク先の GoogleForms へアクセスし、各セッションへの出欠をご回答ください。回答締切りは 9月30日（木） までとします。

3. プログラム

共通論題 『建党100年と「社会主義」中国のゆくえ』

本年の全国大会の共通論題テーマは『建党100年と「社会主義」中国のゆくえ』です。

学界では、中国共産党の成立年そのものに関する議論があります。もし中国の公式見解に依拠するならば、中国共産党は、2021年7月に、建党100年を迎えたこととなります。建党28年で革命を成就し、中華人民共和国の執政党となって以来、中国共産党はこの「社会主義」中国において今日に至るまで「一党支配」を維持・強化し続けています。本学会が日本現代中国学会と称する以上、本年の全国学術大会で「建党100年」というテーマを避けて通ることはできないでしょう。

いうまでもなく、この100年で中国共産党は常に変化し続けてきました。特に改革開放時代には、社会主義初級段階下における社会主義市場経済体制を容認し、「社会主義」中国は著しい経済成長を遂げ、経済大国、軍事大国、さらには政治大国などと言われるまでになりました。中国共産党の党規約には、依然として「党の最高の理想と最終の目標は共産主義の実現である」と掲げられていますが、現在の「社会主義」中国を見るに、いわゆる共産主義社会とは逆のベクトルに突き進んでいる印象を受けざるを得ません。

このような状況を踏まえて、共通論題では、政治、経済、文学ならびに 歴史・社会の領域を中心に、「建党100年」を迎えた中国共産党・習近平政権が目指しているものは何かについて、歴史的な文脈も踏まえつつ、現状を確認し、将来的な展望を議論したいと思います。このような作業を通じて、「もうひとつの100年」である「建国100年（2049年）」に中国共産党が実現を目指す「社会主義現代強国」としての「社会主義」中国の姿を考えたいと思います。

共通論題座長 大澤武司（福岡大学）

学会創立 70 周年記念特別分科会 「大きく変化する中国をどう研究するのか」

2021 年 5 月に日本現代中国学会は成立 70 年を迎えました。この間、私たちの研究対象である中国は、めまぐるしく、大きく変化してきました。また、研究する側である日本社会が発する中国をめぐる問いも著しく変化してきました。この「70 年」には、変化する中国と変化する日本社会の中国観との間の「対話」が埋め込まれているように思います。

本学会に期待されている社会貢献とはなにか。その一つは、中国を学術的に解きほぐし、日本社会の中国理解が深まるように研究成果を発信しつづけることでしょうか。このとき学会が追究すべきことは、如何に的確に変化を説明するかとともに、説明するためのよりよい方法の探求、つまり中国研究のあり方を問い続けることなのだろうと思います。

中国理解に唯一の正解はなく、またその説明は多様な観点から示されることに意味があります。本学会の会誌である『現代中国』の編集委員会の構成が示しているように、私たちの学会は、歴史分野、文学と思想分野、政治と法律分野、経済分野、社会と民族と教育分野という研究分野の多様性を有する、学際性が豊かな組織です。そうであるがゆえに本学会は、意識的にも無意識的にも、中国研究のあり方を問いつづけてきたとあってよいでしょう。本学会は、接近が難しい中国をどう研究するのかを論じる場としての役割を担ってきました。

以上の理解を踏まえて本特別分科会は、「近年、大きく変化する中国をどう研究するのか」という問いを掲げます。その目的は、これまでの日本の中国研究の歩みを回顧しながら日本の中国研究が中国をどの様に捉えてきたのかを論じ、今後、大きく変化する中国を如何に研究するかを検討することにあります。具体的には、中国が経済改革をすすめ、後に市場経済化にむかう道を歩みはじめた 1980 年代以降に発表された中国研究の成果をふまえて、これまでの日本の中国研究の歩みを検討します。そして「市場経済化の道」をこえて、さらに「デジタル化の道」を歩みはじめた中国を展望しながら、これからの日本の中国研究の行方を考えます。

特別分科会座長 加茂具樹（慶應義塾大学）

10月23日(土)

10:30-12:00	全国理事会
13:00-16:30	共通論題『建党100年と「社会主義」中国のゆくえ』
17:00-18:00	総会

10月24日(日)

10:00-12:00	A 企画 「中国における教育の近代化と日本～日米中の視点から～」	B 自由論題(歴史)	C 自由論題(文化)
13:00-15:00	D 特別分科会「大きく変化する中国をどう研究するのか」		
E 15:20-17:20 F・G 15:20-18:00	E 企画 「余暇と娯楽のジェンダー論——身体・空間・メディア」	F 自由論題(政治・社会)	G 自由論題(文学)

10月23日(土)

10:30-12:00 全国理事会

13:00-16:30 共通論題 『建党100年と「社会主義」中国のゆくえ』

座長：大澤武司(福岡大学)

パネリスト：

梶谷懐(神戸大学)

渡辺直土(熊本大学)

大西広(慶應義塾大学)

及川淳子(中央大学)

宇野木洋(立命館大学)

松村志乃(近畿大学)

17:00-18:00 総会

10月24日(日)

午前の部 10:00-12:00

A 企画 「中国における教育の近代化と日本～日米中の視点から～」

座長：武小燕(愛知大学)

報告

川尻文彦(愛知県立大学)「明治日本の教科書と中国——著作権問題を中心に」

山下大喜（名古屋大学・院）「デューイからみた日中近代教育の比較」

武小燕（愛知大学）「近代中国の教育における日本モデルとアメリカモデルの消長」

討論

土屋洋（名古屋大学）

宮原佳昭（南山大学）

B 自由論題（歴史）

座長：大澤武司（福岡大学）

報告 1 羅燦（早稲田大学・院）「中国国家歴史教科書における歴史認識、道徳と時間性」

報告 2 石田卓生（愛知大学）「東亜同文書院大学中国語教育の戦後における展開について：愛知大学を事例として」

報告 3 楊小平（島根大学）「南京大虐殺の記憶と都市文化の再生成」

C 自由論題（文化）

座長：千野拓政（早稲田大学）

報告 1 楊冠穹（関西外国語大学）「歌われる「李香蘭」」

報告 2 陳麟（東京芸術大学・院）「上海の中国人社会におけるジャズ受容の前史——社交ダンス活動を中心に——」

報告 3 張宇博（早稲田大学・院）「『私のプリンス・エドワード』と香港アイデンティティ」

午後の部

13:00-15:00

D 学会創立 70 周年記念特別分科会 「大きく変化する中国をどう研究するのか」

座長：加茂具樹（慶應義塾大学）

趣旨説明：加茂具樹、中村元哉（東京大学）

報告 1 村田雄二郎（同志社大学）

報告 2 巖善平（同志社大学）

報告 3 山本達也（清泉女子大学）

討論

砂山幸雄（愛知大学）

阿古智子（東京大学）

15:20-17:20

E 企画「余暇と娯楽のジェンダー論——身体・空間・メディア」

座長：菅原慶乃（関西大学）

報告

大濱慶子（神戸学院大学）「戦後日中の社交ダンスの再生——〈平等〉の身体化」

横山政子（志學館大学）「東北農村の「小喇叭」——有線放送の開始」

菅原慶乃（関西大学）「男装するモダンガール——雑誌・映画・越劇を往還する女性の読者／観客」

文化」

討論

田村容子（北海道大学）

西村正男（関西学院大学）

15:20-18:00

F 自由論題（政治・社会）

座長：鄭浩瀾（慶應義塾大学）

報告1 周俊（東京大学社会科学研究所特任研究員）「中国共産党と秘密主義：「保密工作」の展開とその実態」

報告2 松田康博（東京大学）「延長された国共内戦：台湾海峡を挟んで何が起きていたのか？」

報告3 大西広（慶應義塾大学）「東洋的専制と西洋的奴隸制——現代に引き継がれる伝統の西洋との対比——」

報告4 松本理可子（早稲田大学・院）「社会関係資本と文化資本の融合——中医薬企業を例として」

G 自由論題（文学）

座長：小笠原淳（熊本学園大学）

報告1 段書暁（早稲田大学非常勤講師）「未来を救う技術：清末科学小説における兵器表象」

報告2 田中雄大（東京大学・院）「「詩的な小説」という言説の形成——周作人の廢名評を手がかりに」

報告3 劉娟（横浜国立大学・院）「中国国家図書館の児童書選定における絵本の浸透及びその背景——「全民閲読運動」に注目して」

報告4 郭濟飛（早稲田大学・院）「文脈の境界線を超えて——ケン・リュウの短編 SF について」

※大会に関する連絡は実行委員会アドレス genchu2021@gmail.com あてにお願いします。